

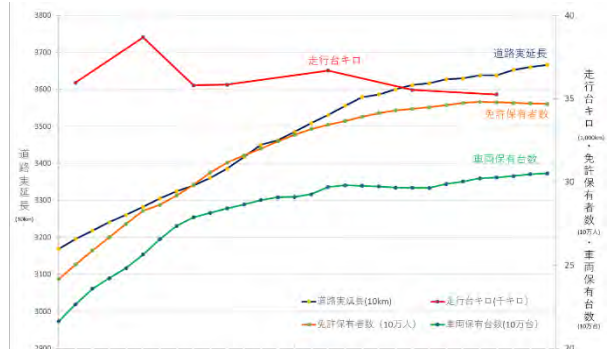
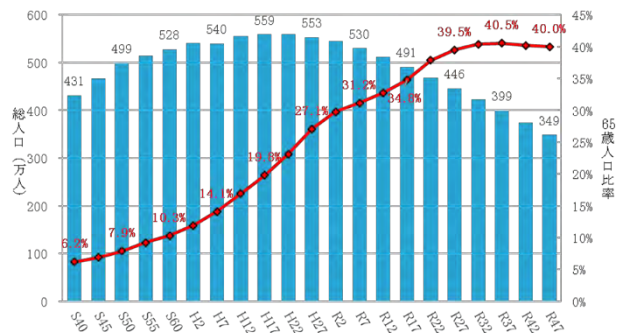
持続可能な交通安全施設等の整備の在り方に関する懇話会の開催結果について（報告書概要）

はじめに

本格的な人口減少と高齢化社会を迎える中、県下における今後の人口動態、財政状況、交通安全施設等の老朽化等を踏まえ、今後の交通安全施設等の整備の在り方について、有識者、道路利用者等からの意見を聴くため懇話会を設置し、討議を重ね報告書として取りまとめた。なお、懇話会では、交通安全施設等のうち、県民への影響が大きな信号機を対象に主として検討を進めることとした。

兵庫県を取り巻く現状

- 総人口は、平成21年の559.9万人をピークに令和27年には445.7万人へ減少し、高齢化率は令和27年には39.5%に増加すると予想されている（図1）。こうしたことから、将来における税収の減少など深刻な問題が表面化しつつある。
- 道路実延長は、年々増加傾向にあるが近年はその伸びは緩やかである。車両保有台数は緩やかな増加傾向、運転免許人口は平成26年をピークに減少傾向、走行台キロは平成9年以降横ばい傾向である。（図2）交通事故死者数は、近年減少している。



交通安全施設等の整備状況と予算推移

- 信号制御機及び横断歩道の設置数は、この30年間でそれぞれ1.5倍、1.45倍に増加している。これまで整備された膨大な数の交通安全施設等を継続して維持管理することが必要となっている。
- 大量の交通安全施設等が更新時期を迎えているものの、更新が追い付かず老朽化が進行している。特に、信号制御機の更新基準超過率は38%で、全国ワースト1位である。（表1）
- 整備費と維持費を合わせた交通安全施設等に係る予算は、平成21年度約46億円から平成30年度約35億円と大幅に減少している（図3）。なお、老朽化が深刻な現状から、このための対策費が平成29年度から別途、措置されている。
- 信号機に係る予算は、整備費全体の4割と大きな割合を占めている。（図4）

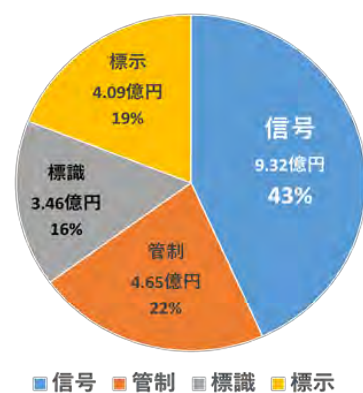
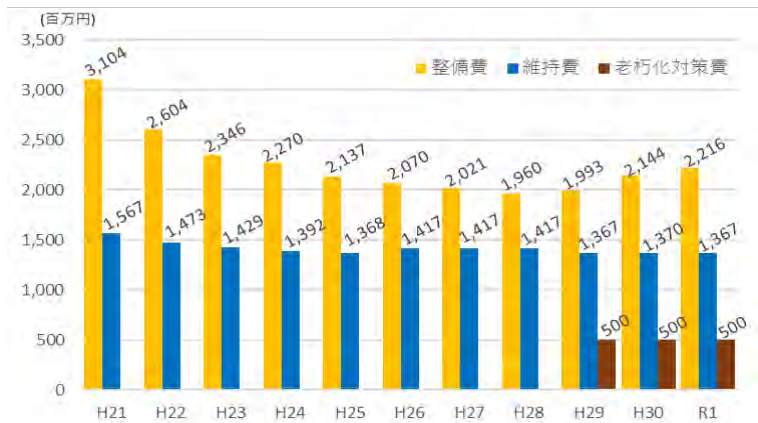


図3 整備費・維持費の推移

図4 令和元年度における整備費の割合

表1 主な交通安全施設等の老朽化

主な交通安全施設	更新基準年数	設置数(平成30年度末)		更新基準超過
			更新基準超過	
信号制御機	19年	7,231基	2,749基	38.0%
信号柱	40年	35,243本	6,980本	19.8%
大型標識柱	40年	16,150本	678本	5.7%

信号機の適正な総数管理に係る方向性の確立

- 持続可能な信号機の整備の在り方という目標を達成するため、信号機の老朽化の現状や信号機設置の必要性などを把握した上で、中長期的な観点から整備計画を策定することが必要である。
- 具体的には、信号機の新設については必要性の高い場所を選定して整備する一方で、道路交通環境の変化等により必要性が低下した信号機については、原則として撤去の検討を進めることにより信号機の「総数管理」を徹底していく必要がある。
- 総数管理に向けた作業を怠れば、老朽化による信号機の倒壊や滅灯等が頻発し、災害時にはこうしたリスクが更に高まるとともに、真に必要な箇所へ信号機を設置することが困難となる恐れがある。このような老朽化の現状と総数管理の必要性について県民の理解を得ることが不可欠である。
- 信号機の撤去を進める際には、地域住民に対し、必要性が低下したと判断した理由を丁寧に説明するとともに、信号機に代わる安全対策についてはその根拠を示しながら提示することなどによって、可能な限り理解を得られるよう努めることが重要である。
- 個々の信号機に対して必要性の高・低が点検されているが、点検結果についてはデータベース化によって一元管理を行い、更新・撤去候補となる信号機の優先順位を付けるなど、更新・撤去計画を策定する必要がある。

信号機に代わる安全対策の検討

- 一時停止など交通管理者の対策に加えて、カラー舗装、狭窄、ハンプなど道路管理者による対策が考えられ、これらの対策の検討・実施にあたっては住民の意見も踏まえながら、交通管理者と道路管理者との密接な協議と連携が必要である。
 - 新たな信号機の設置要望箇所に対しては、ゾーン30*の導入やラウンドアバウト、二段階横断歩道の整備など、信号機に代わる安全対策の可能性について検討することが必要である。
 - 近年、横断歩道における歩行者優先意識の徹底が課題となっており、これまで以上に交通ルール順守に係る意識の徹底を図るとともに、交通指導取締りを重点的に実施することが望まれる。
 - 全国で実施された信号機に代わる安全対策について、事例ごとの対策内容等に加え、効果測定結果を蓄積し、全国の警察で情報共有できる仕組みづくりが必要である。
- *ゾーン30:住宅地などの一定の広がりを持ったエリアを対象として、通過交通を排除し、走行速度を抑制するための対策を面的に実施する施策。

信号機の維持管理・更新費用の縮減に向けた取り組み

信号機の総数管理を進めると同時に、必要とされる信号機の維持管理・更新については、限られた予算で最大限の効果を上げるため、トータルコストの縮減に取り組むことが必要である。

- 点検体制の効果的な運用と点検結果のデータベース化
- 信号灯器のLED化等の長寿命化
- 補助灯器の整理や複数交差点を一つの信号制御機で運用する灯器連動の導入、必要性の高い箇所への移設など、既設信号機の効率的な運用

信号機を取り巻く諸課題への対応

- 信号機の整備にあたっては、地域・都市に関わる諸課題（災害への備え、高齢者・障がい者等による移動の円滑化、景観・環境への配慮、情報通信基盤としての活用等）への対応が望まれる。
- 諸課題へ対応していくため、関連分野からの予算措置を可能とする新たな仕組みづくりが望まれる。